

(仮訳)

**世界人道サミットに関する閣僚級サイドイベント
白石・女性・人権人道担当大使ステートメント**

(平成27年9月30日(水曜日) 9:00-11:00 (於: 国連本部))

日本は、2番目の地域準備会合を東京にて共催するなど、世界人道サミットのプロセスを積極的に支持しています。人間一人ひとりを大事にする人間の安全保障を実現すべく人道支援を積極的に実施する国として、また、自ら多くの災害を乗り越えてきた国として、自らが得た知見を共有し世界人道サミットの議論に引き続き貢献して参ります。

人道危機の長期化や再発により、難民・国内避難民としての生活期間が平均17年間にも及ぶという驚くべき統計があります。このような困難な状況に対応するため、人道危機への対応においては、早い段階から、人道支援と開発援助の双方のアクターが連携して、難民・国内避難民が開発・成長の担い手として受入れコミュニティとよりよく協働できる環境を創出することが重要です。このような観点から、日本は、人道支援と開発の連携が一層強化されるよう貢献して参ります。

また、繰り返し発生する災害については、発災後の迅速な対応のみならず、被害を軽減するために、社会全体を災害に耐えうる強靱な構造にする幅広い取組が必要です。第3回国連防災世界会議において発表したとおり、日本は長期的視点に立った「防災投資」、「より良い復興」、「中央政府と多様な主体の連携」を重視しております。災害に強い社会づくりは、人道危機の発生を防ぐための未来への必要な投資です。また、津波への啓発を進めるための「世界津波の日」の制定を含め各国と連携して参ります。

人道支援を効果的に進めていくためには、女性の保護とエンパワーメントも重要な課題です。日本は「女性が輝く社会」の実現に向けて積極的に取り組んでおり、「World Assembly for Women in Tokyo」を2年連続して成功裏に開催しました。人道支援においても、あらゆる段階において女性の参画とエンパワーメントという視点が確保されるべきです。

世界人道サミットが、危機に強い社会づくりや緊急事態へのより効果的な対応を実現するための方策につき共に考え、幅広いパートナーの行動を促す契機となり、国際社会が一人でも多くの命を救うこ

とができるようになることを期待しております。

御静聴ありがとうございました。